

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅱ (Career DevelopmentⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科バイオ医療研究専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 薬業界において長きに渡り、地域住民のセルフメディケーションを支援してきた教員が、薬業界で活躍できるプロに必要なとされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。							
【到達目標】 現在の薬業界が抱える諸問題を考え、目指す職業の未来の姿を創造し、求められる社会的役割を理解出来るように、自分の意見を積極的に発信できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 薬事日報 他 業界誌				【授業外における学習】 新聞やニュース、インターネット、通学中においては車内広告等、様々な情報媒体から情報収集をしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 卒業までの目標をたてる 【授業形態】 講義 【到達目標】 卒業までの目標をたて、更に細かくスケジュール化し、具体的な行動まで、落とし込む			9	【授業単元】 少子高齢化について考える① 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
2	【授業単元】 出生前診断について考える① 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			10	【授業単元】 少子高齢化について考える② 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
3	【授業単元】 出生前診断について考える② 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			11	【授業単元】 少子高齢化について考える③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
4	【授業単元】 出生前診断について考える③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			12	【授業単元】 医薬品の販売制度について考える① 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
5	【授業単元】 バイオテクノロジーの倫理的問題について考える① 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			13	【授業単元】 医薬品の販売制度について考える② 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
6	【授業単元】 バイオテクノロジーの倫理的問題について考える② 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			14	【授業単元】 医薬品の販売制度について考える③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する		
7	【授業単元】 バイオテクノロジーの倫理的問題について考える③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分の意見を分かり易く伝える 相手の意見を傾聴する 立場で違う意見を理解する			15	【授業単元】 薬業界の未来予想図 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬業界を取り巻く環境変化を理解し、未来を予測する		
8	【授業単元】 自己理解と他者理解を深める 【授業形態】 講義 【到達目標】 相互に「褒める」コメントを交換し、自己理解と他者理解を深める			【評価について】 評価は、筆記試験と出席率で行う。授業内で確認した内容の理解、定着度を確認する。 出席率(40点)と、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅲ (Career Development Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 薬業界において長きに渡り、地域住民のセルフメディケーションを支援してきた教員が、薬業界で活躍できるプロに必要なとされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。							
【到達目標】 自律と自立を両立したプロの職業人として卒業後に活躍できるように、学業以外に必要な知識技術を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 2024年度版 新社会人の基礎力				【授業外における学習】 新聞やニュース、インターネット、通学中においては車内広告等、様々な情報媒体から情報収集をしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 前期に立てた目標の達成状況を確認する 【授業形態】 講義 【到達目標】 前期を振り返り、後期の目標を立てる			9	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する		
2	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			10	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する		
3	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			11	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する		
4	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			12	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する		
5	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			13	【授業単元】 2年間を振り返る① 【授業形態】 講義 【到達目標】 2年間を振り返り、自分の言葉でまとめる		
6	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			14	【授業単元】 2年間を振り返る② 【授業形態】 講義 【到達目標】 2年間を振り返り、支えてくれた人に感謝の気持ちを伝える		
7	【授業単元】 社会人に必要な知識を身につける 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会人に必要なとされる基礎力を習得する			15	【授業単元】 2年間を振り返る③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 卒業に向けた最後の準備をする		
8	【授業単元】 前半の振り返りと後半の目標設定 【授業形態】 講義 【到達目標】 残りの学生生活の目標を立てる			【評価について】 評価は、筆記試験と出席率で行う。授業内で確認した内容の理解、定着度を確認する。 出席率(40点)と、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	コンピュータⅡ (ComputerⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 ＜学習内容＞ ・訴求力の高いプレゼンテーションの作成							
【到達目標】 ・社会におけるプレゼンテーションの役割について理解する ・Excelデータ等を活用した訴求力のあるスライドを制作できる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1(設計) 【授業形態】 演習 【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライドの作成の設計ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 プレゼンテーション基礎2(図解) 【授業形態】 演習 【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3(表・図表) 【授業形態】 演習 【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 プレゼンテーション基礎4(画像・グラフ) 【授業形態】 演習 【到達目標】 画像とグラフの効果的な活用ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5(アニメーション) 【授業形態】 演習 【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定について理解し活用できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 Word応用(長文加工) 【授業形態】 演習 【到達目標】 長文作成における必要な操作ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 プレゼンテーション基礎で習ったことを実践できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 プレゼンテーション試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験 PowerPointスライド作成				【評価方法について】 評価は実技試験で行い、授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。定期試験の100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	医薬品製剤論 (Pharmaceutical Preparation Theory)		必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 調剤薬局事務/ドラッグストア専攻		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 薬剤師の資格を有し、長年に渡り、教育現場で薬学に関する授業を担当してきた講師が授業を行う。医薬品製造するにあたり剤形の違いによる特徴や製造工程を薬局で製造できる薬局製剤を製造する実習を行うために製造方法や分析方法を説明する。								
【到達目標】 医薬品製剤実習を行うための知識を身につけ実際に行うことができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 各種プリント					【授業外における学習】 予習より復習 前回の講義の小テストが講義の最初に必ずあるので復習をしておくこと			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 1～3までの内容について知識の確認をするとともに解説をすることで知識のフェードバックができるようになる。					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 講義 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる					【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 半年間知識を身に着けてきたものを再確認する。					【評価について】 小テスト40点、中間試験30点、定期試験30点		
【特記事項】								

科目名 (英)	薬物動態学 (Pharmacokinetics)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
担当教員(薬剤師・薬学博士)は、医系大学で生命科学分野で教育・研究を行っている。本講義では薬の使用において重要な薬物動態(体内での吸収・分布・代謝・排泄)について理解し、安全な薬物治療を行う基礎を習得するための授業を行う。薬物動態は、複数の医薬品の併用、薬物代謝酵素の遺伝子多型などによって大きな影響を受けるため、予期せぬ副作用が発現することがある。薬物動態学の知識は、医薬品の有用性や副作用発現の理解に大変役立つことから、この授業において基礎的な知識をしっかりと身に付け、職能に生かして頂きたい。							
【到達目標】							
1 薬物動態は、薬の血中濃度変化を考えることが重要である。この血中濃度に影響を与える因子を列挙できる。 2 薬の投与経路と体内の薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)について、概説できる。 3 薬の併用、疾患における薬物動態における影響を例を挙げて説明できる。 4 薬物代謝酵素の遺伝子多型や生活習慣が薬物代謝に与える影響を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教材:配布プリント。 参考書:基礎からの薬物動態学(テコム)、臨床薬物動態学(南山堂)、はじめの一步の薬理学(羊土社)など。							
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要	回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【授業単元】 1 薬物動態学とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 薬物が生体膜を通過する機構を説明できる。 ② 生理学的な薬物速度論モデルを概説できる。 ③ 吸収・分布・代謝・排泄について概説できる。 ④ 薬の効果、副作用において、薬物動態学の重要性を概説できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 2 薬物の吸収と分布 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 薬物血中濃度が薬物動態学の指標であることが理解できる。 ② 薬の投与経路と吸収の関連を説明できる。 ③ 分布容積について説明できる。 ④ 分布における血漿アルブミンの影響について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】 3 薬物の代謝・排泄 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 薬物代謝に重要な臓器の肝臓の役割を説明できる。 ② 薬物代謝酵素について説明できる。 ③ 薬の排泄に重要な腎臓の役割を説明できる。 ④ 代謝と排泄における変動因子を挙げることができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】 中間試験(1～3回)、4 薬物代謝酵素 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 中間試験により、第1～3回の講義内容を復習・確認する。 ② 薬物代謝酵素の種類と遺伝子多型を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】 5 薬物速度論とクリアランス 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① コンパートメントモデルの概念が説明できる。 ② 静脈内単回・連続投与、経口投与と血中濃度の関係を説明できる。 ③ クリアランスについて、説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】 6 薬物相互作用 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 吸収における薬物相互作用の影響について、説明できる。 ② 代謝における薬物相互作用の影響について、説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】 7 年齢、病態下等における薬物動態 【授業形態】 講義 【到達目標】 ① 幼児・小児、また高齢者における薬物動態 ② 高齢者における薬物動態 ③ 肝機能、腎臓疾患などにおける薬物動態		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 講義全般から出題する。到達目標の達成と、全体的な理解を確認する内容となる。		【評価方法について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解度、定着度を確認する。 中間試験(40点満点) 実施方法:時間は1時間、資料持込可 定期試験(60点満点) 実施方法:時間は1時間、資料持込可 評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】							
薬物動態学は、薬物の体内挙動を扱う学問であることから、これを規定する生体(人体)との関わりに注目して受講して頂きたい。							

科目名 (英)	化学物質の性質と反応 (Nature and reaction of chemical compound)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 バイオ医療研究専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 化学を専門分野とし、企業の研究所で化学物質の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、薬を扱う仕事や薬の研究に必要な、化学物質に関する基礎を教える。1学年で学んだ、化学、有機化学から発展して、無機化合物、有機化合物のより詳しい性質と反応、有機化合物の構造決定法についての知識を習得し、卒業研究や将来の仕事に役立ててほしい。							
【到達目標】 重要な元素や無機化合物の性質を中心に無機化学の基礎を習得する。1学年の有機化学で学んだ、有機化合物の官能基による分類、それぞれの分類に属する化合物の構造、特性、命名法の復習をしたのち、反応を中心とした有機化学の基礎を習得する。更に、有機化合物の分離と構造決定法について学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 化学入門 第2版 東京化学同人				【授業外における学習】 教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 元素に関する知識の確認 【授業形態】 講義 【到達目標】 元素の周期表、典型元素と遷移元素の違い、金属元素と非金属元素の違いなど、無機化学に関する基礎知識を確認する。			9	【授業単元】 芳香族化合物の性質と反応 【授業形態】 講義 【到達目標】 芳香族化合物の性質と、ベンゼン環の配向性(置換基効果)について理解し、特に重要な反応について、反応機構から理解する。		
2	【授業単元】 金属元素 【授業形態】 講義 【到達目標】 金属元素について、一般的性質と特に重要な金属元素の特性を知る。			10	【授業単元】 アルコールとエーテル 【授業形態】 講義 【到達目標】 アルコールとエーテルについて、命名法について復習し、性質と反応について学ぶ。		
3	【授業単元】 非金属元素 【授業形態】 講義 【到達目標】 特に重要な非金属元素について、その特性と主な用途について学ぶ。			11	【授業単元】 カルボニル化合物 【授業形態】 講義 【到達目標】 カルボニル化合物とは何か。具体的にはどういう化合物か(アルデヒド、ケトン)。アルデヒドとケトンの命名法、また、その性質と反応について学ぶ。		
4	【授業単元】 無機材料 【授業形態】 講義 【到達目標】 無機材料について、それを構成する元素または分子、構造、特性及び用途について学ぶ。			12	【授業単元】 カルボン酸、エステル、アミン、アミド 【授業形態】 講義 【到達目標】 カルボン酸、エステル、アミン、アミドについて、命名法、性質、主な反応についての知識を習得する。		
5	【授業単元】 有機化合物 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物と無機化合物の違い、異性体、アルカン、アルケン、アルキンについての基礎知識を確認する。			13	【授業単元】 有機化合物の分離法 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物の主な分離法についてその原理と方法について学ぶ。		
6	【授業単元】 有機化合物の官能基 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物の主な官能基についての知識を確認し、官能基による有機化合物の分類とその一般式、それぞれの分類における具体的な化合物の構造と特性、反応について学ぶ。			14	【授業単元】 有機化合物の構造決定法 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物の主な構造決定法についてその原理と方法について学ぶ。		
7	【授業単元】 ベンゼンと芳香族化合物 【授業形態】 講義 【到達目標】 ベンゼンの構造と性質、芳香族化合物について理解し、ベンゼン置換体、多環芳香族化合物の重要なものについて名称と構造式についての知識を確認する。			15	【授業単元】 【授業形態】 復習及び定期試験・解答解説 【到達目標】 定期試験により、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。		
8	【授業単元】 【授業形態】 中間試験・解答解説 【到達目標】 中間試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義はよく聞き、板書したことはノートに書くこと。							

科目名 (英)	医薬品医療機器等法 (Pharmaceutical and Medical Device Act)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2時限
学科・コース	くすり総合学科バイオ医療研究専攻						
【授業の学習内容と心構え】 メーカーにて商品開発・薬事業務を担当し、その後、薬剤師として病院や調剤薬局にて調剤/服薬指導を行っている教員が授業を担当する。医薬品開発研究のスペシャリストを目指すために、医薬品医療機器等法や関連規制の概要、開発に必要な各種規制について学ぶ。また医薬品医療機器等法の違反事例を演習を通じて学習することで、実務に役立つ実践的な知識獲得を目的とした授業を行う。							
【到達目標】 医薬品およびバイオテクノロジー応用医薬品の概要についての知識を習得する。 医薬品およびバイオテクノロジー応用医薬品の開発に必要な法規制の概要についての知識を習得する。 医薬品医療機器等法の違反事例研究を通じて法令遵守の重要性を理解する。							
【使用教 教科書: わかりやすい医薬品医療機器等法 薬事日報社 参考書: 医薬品非臨床試験ガイドライン解説2020 薬事日報社 医薬品・医療機器改正GLP解説 薬事日報社				【授業外における学習】 日頃から医薬品医療機器法の違反事例に関するニュースやネット記事に目を通すことにより、授業で学んだ知識を深め、法令遵守の重要性を再認識することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】医薬品と法規制 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品およびバイオテクノロジー応用医薬品の開発に必要な法規制の概要を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】医薬品の分類 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品の分類と特性について説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 医薬品等適正広告基準 【授業形態】講義・事例研究 【到達目標】 医薬品医療機器等法による広告規制① 医薬品等適正広告基準違反事例研究を通じて、法令遵守の重要性を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 医薬品の範囲に関する基準 【授業形態】講義・事例研究 【到達目標】 医薬品医療機器等法による広告規制② 医薬品の範囲に関する基準の違反事例研究を通じて、法令遵守の重要性を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 医薬品の開発と規制 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品開発の流れおよび各種規制の概要を説明できる				【授業単元】 【授業形態】講 【到達目標】		
6	【授業単元】 医薬品の製造販売承認申請 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品の開発と関連規制について説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 医薬品医療機器等法の違反事例研究 【授業形態】事例研究 【到達目標】 製薬会社による医薬品医療機器等法の違反事例研究を通じて、法令遵守の重要性を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 総復習・定期試験 【授業形態】 【到達目標】 各単元で学習した内容の重要ポイントを押さえ、わからない問題を明確にしたうえで、医薬品医療機器等法の基礎知識の定着を図る				【評価について】 評価は、筆記試験で行う。 授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。 筆記試験は、小テスト(40点)と定期試験(60点)のが合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】 各授業でプリントに記載するよう指示したにポイントは、必ずメモし覚えること。							

科目名 (英)	生薬学 (Pharmacology)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科 調剤薬局/ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 ドラッグストア、調剤薬局、専門学校教師など様々な経験を積んできた事をもとに当該科目を指導します。薬を取り巻く社会情勢を伝えていき、学生自身の進路について考えるきっかけにしてほしい。							
【到達目標】 日本薬局方の生薬の同定と品質評価について理解する。生薬とは何か、役割を理解する。さらに臨床で使用される漢方薬について理解するために、漢方生薬の薬効や副作用について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 パワポ・プリント配布				【授業外における学習】 復習・宿題			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 生薬とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬ってどういうものののかについて理解する 生薬とは何か。また天然物から作られる商品に触れてみる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P4,8,20,36,40,42,44,46の生薬について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P50,56,72,80,88,92,96,110の生薬について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P118,136,148,176,182,194,198,200の生薬について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P202,206,208,218,222,226,244,246の生薬について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P250,252,258,262,264,268,272,290の生薬について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 生薬について学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生薬について学ぶ P300,306,308,318の生薬について理解する 薬膳について考える、学ぶ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 【到達目標】 すべての授業内容のまとめテスト。			【評価方法について】 定期試験80点(1-7)実施方法は筆記試験。 授業後に出す課題の提出状況。20点			
【特記事項】							

科目名 (英)	漢方総論 I (Traditional medicine theory)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科 ドラッグストア・調剤薬局専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1～2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 鍼灸師・薬剤師として、長年にわたり鍼灸治療・漢方相談を実践してきた教員が、漢方製剤の販売に関わる東洋伝承医学的素養の講義を体系的に行なう。現代日本に在って漢方薬を中核とする東洋伝承医学の有用性は高く、また登販試験に多数の関連設問が出題されている。店頭ですぐに漢方薬の知識を活かすことができ、自らの体調管理にも活用でき、2000年前から確立している医学理論で変わることなく応用できる。医薬品実務に「すぐに役立つ漢方薬」、セルフメディケーションとして「いつか役立つ漢方薬」、一度習得しておけば「いつまでも役立つ漢方薬」と極めて効率よい学問と言える。							
【到達目標】 東洋伝承医学の知恵に拠り、軽医療最前線に位置付けられる薬局薬店で活かせるセルフケアアドバイスを習得する。 本邦で流通し入手可能な漢方製剤を組成する個々の生薬の薬能および方剤全体の薬効を習得する。 薬局薬店店頭で相談を受け易いありふれた可逆的な症状に用いられ易い漢方製剤の運用法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
東京医薬看護専門学校作製『オリジナルノート:漢方総論』 『増補改訂版:漢方診療ハンドブック』 『新・一般用漢方処方の手引き』				漢方処方生薬製剤というモノの学問としてだけでなく、より広範な東洋伝承医学という学問体系から、健康管理・疾病対策の手段を学び取ってほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 漢方概論 1 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 漢方研修指針 暮らしの中の生薬(天然物医薬品) セルフケア・セルフメディケーションに有用な漢方薬			9	【授業単元】 漢方概論 9 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑥ 補益作用が期待される生薬・方剤 人參、補中益気湯、など		
2	【授業単元】 漢方概論 2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 漢方薬剤学総論 漢方生薬学 漢方方剤学			10	【授業単元】 漢方概論 10 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑦ 理気作用が期待される生薬・方剤 柴胡、香蘇散、など		
3	【授業単元】 漢方概論 3 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 『登販GL』生薬漢方関連アウトライン 総論領域 薬剤各論			11	【授業単元】 漢方概論 11 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑧ 理血作用が期待される生薬・方剤 当歸、桂枝茯苓丸、など		
4	【授業単元】 漢方概論 4 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤① 桂枝湯組成生薬 桂枝、葛根湯、など			12	【授業単元】 漢方概論 12 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑨ 利水作用が期待される生薬・方剤 茯苓、五苓散、など		
5	【授業単元】 漢方概論 5 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤② 解表作用が期待される生薬・方剤 麻黄、消風散、など			13	【授業単元】 漢方概論 13 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑩ 其の他 酸棗仁、安中散、など		
6	【授業単元】 漢方概論 6 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤③ 清熱作用が期待される生薬・方剤 石膏、黄連解毒湯、など			14	【授業単元】 漢方概論 14 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 登録販売者認定試験生薬漢方関連設問① 生薬製剤 留意すべき有害事象		
7	【授業単元】 漢方概論 7 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤④ 去寒作用が期待される生薬・方剤 附子、人參湯、など			15	【授業単元】 漢方概論 15 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 登録販売者認定試験生薬漢方関連設問② 「漢方概論」総括・期末考査		
8	【授業単元】 漢方概論 8 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重要漢方薬剤⑤ 通下作用が期待される生薬・方剤 大黃、三黃瀉心湯、など			評価は、筆記試験にて行なう。講義内容の習得を確認する意図を以てて毎回講義終了時に「小テスト」を実施し、その合計点を40点に換算し、期末考査の60点と合わせて百点満点とし、評価基準は『学則規定』に準ずる。			
【特記事項】 『オリジナルノート:漢方総論』に準拠して講義を進めるので、空欄部分に書き込みを入れながら、自分自身の活かせるノートを作製するよう努める。							

科目名 (英)	漢方総論Ⅱ (Traditional medicine theoryⅡ)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科調剤薬局事務/ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1～2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 鍼灸師・薬剤師として、長年にわたり鍼灸治療・漢方相談を実践してきた教員が、漢方製剤の販売に関わる東洋伝承医学的素養の講義を体系的に行なう。現代日本に在って漢方薬を中核とする東洋伝承医学の有用性は高く、また登販試験に多数の関連設問が出題されている。店頭ですぐに漢方薬の知識を活かすことができ、自らの体調管理にも活用でき、2000年前から確立している医学理論で変わることなく応用できる。医薬品実務に「すぐに役立つ漢方薬」、セルフメディケーションとして「いつか役立つ漢方薬」、一度習得しておけば「いつまでも役立つ漢方薬」と極めて効率よい学問と言える。							
【到達目標】 東洋伝承医学の知恵に拠り、軽医療最前線に位置付けられる薬局薬店で活かせるセルフケアアドバイスを習得する。 本邦で流通し入手可能な漢方製剤を組成する個々の生薬の薬能および方剤全体の薬効を習得する。 薬局薬店店頭で相談を受け易いありふれた可逆的な症状に用いられ易い漢方製剤の運用法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 東京医薬看護専門学校校作製『オリジナルノート：漢方総論』 『増補改訂版：漢方診療ハンドブック』 『新・一般用漢方処方の手引き』				【授業外における学習】 漢方処方生薬製剤というモノの学問としてだけでなく、より広範な東洋伝承医学という学問体系から、健康管理・疾病対策の手段を学び取ってほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 漢方各論 11 【授業形態】 講義 【到達目標】 耳鼻咽喉科系病症に常用される漢方処方製剤② 耳鳴、眩暈、嘔声 苓桂朮甘湯、麦門冬湯、など			9	【授業単元】 漢方各論 19 【授業形態】 講義 【到達目標】 常用漢方処方製剤総括① 小青竜湯応用展開 麦門冬湯応用展開		
2	【授業単元】 漢方各論 12 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液疾患に常用される漢方処方製剤 眼科系病症に常用される漢方処方製剤 十全大補湯、八味地黄丸、など			10	【授業単元】 漢方各論 20 【授業形態】 講義 【到達目標】 常用漢方処方製剤総括② 防風通聖散応用展開 補中益気湯応用展開		
3	【授業単元】 漢方各論 13 【授業形態】 講義 【到達目標】 産婦人科系病症に常用される漢方処方製剤① 月経異常、不妊症 当归芍薬散、温経湯、など			11	【授業単元】 漢方各論 21 【授業形態】 講義 【到達目標】 漢方薬剤の有害作用 古典的副作用・今日的副作用 留意すべき生薬方剤		
4	【授業単元】 漢方各論 14 【授業形態】 講義 【到達目標】 産婦人科系病症に常用される漢方処方製剤② 子宮筋腫、更年期障害 桂枝茯苓丸、加味逍遥散、など			12	【授業単元】 漢方各論 22 【授業形態】 講義 【到達目標】 一般用医薬品としての生薬製剤 民間薬・家伝薬 OTC漢方処方製剤		
5	【授業単元】 漢方各論 15 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児科系病症に常用される漢方処方製剤 虚弱児、夜尿症 小建中湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、など			13	【授業単元】 漢方各論 23 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療用医薬品としての生薬製剤 生薬製剤統一識別番号 現代医療に於ける常用処方		
6	漢方各論 16 【授業形態】 講義 【到達目標】 老年性病症に常用される漢方処方製剤 認知障害、骨粗鬆症 釣藤散、八味地黄丸、など			14	【授業単元】 漢方各論 24 【授業形態】 講義 【到達目標】 漢方概論⇒漢方各論⇒漢方相談実践へ もうひとつの東洋伝承医学 内治法：漢方薬vs外治法：鍼灸術		
7	【授業単元】 漢方各論 17 【授業形態】 講義 【到達目標】 新しい病態に応用される漢方処方製剤 実例：イレウスに大建中湯 実例：VDT症候群に釣藤散			15	【授業単元】 漢方各論 25 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 「漢方総論」総括 期末考査		
8	【授業単元】 漢方各論 18 【授業形態】 講義 【到達目標】 現代的な病態に応用される漢方処方製剤 実例：メタボに防風通聖散 実例：フレイルに八味地黄丸			【評価方法について】 評価は、筆記試験にて行なう。講義内容の習得を確認する意図を以って毎回講義終了時に「小テスト」を実施し、その合計点を40点に換算し、定期試験の60点と合わせて百点満点とし、評価基準は『学則規定』に準ずる。			
【特記事項】 『オリジナルノート：漢方総論』に準拠して講義を進めるので、空欄部分に書き込みを入れながら、自分自身の活かせるノートを作製するよう努める。							

科目名 (英)	漢方総論 II (Traditional medicine theory II)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科調剤薬局事務/ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1～2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 鍼灸師・薬剤師として、長年にわたり鍼灸治療・漢方相談を実践してきた教員が、漢方製剤の販売に関わる東洋伝承医学的素養の講義を体系的に行なう。現代日本に在って漢方薬を中核とする東洋伝承医学の有用性は高く、また登販試験に多数の関連設問が出題されている。店頭ですぐに漢方薬の知識を活かすことができ、自らの体調管理にも活用でき、2000年前から確立している医学理論で変わることなく応用できる。医薬品実務に「すぐに役立つ漢方薬」、セルフメディケーションとして「いつか役立つ漢方薬」、一度習得しておけば「いつまでも役立つ漢方薬」と極めて効率よい学問と言える。							
【到達目標】 東洋伝承医学の知恵に拠り、軽医療最前線に位置付けられる薬局薬店で活かせるセルフケアアドバイスを習得する。 本邦で流通し入手可能な漢方製剤を組成する個々の生薬の薬能および方剤全体の薬効を習得する。 薬局薬店店頭で相談を受け易いありふれた可逆的な症状に用いられ易い漢方製剤の運用法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 東京医薬看護専門学校作製『オリジナルノート：漢方総論』 『増補改訂版：漢方診療ハンドブック』 『新・一般用漢方処方の手引き』				【授業外における学習】 漢方処方生薬製剤というモノの学問としてだけでなく、より広範な東洋伝承医学という学問体系から、健康管理・疾病対策の手段を学び取ってほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 漢方概論 16 【授業形態】 講義 【到達目標】 東洋伝承医学の今日的意義 疾病構造の変化 セルフケア・セルフメディケーションに有用な漢方薬剤			24	【授業単元】 漢方各論 4 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化器系病症に常用される漢方処方製剤② 下痢軟便、常習便秘 六君子湯、大黃甘草湯、など		
17	【授業単元】 漢方概論 17 【授業形態】 講義 【到達目標】 現代医学とは異なる治療戦略をもつ漢方医学 西洋近代医学・東洋伝承医学 はっきり強要・あいまい許容			25	【授業単元】 漢方各論 5 【授業形態】 講義 【到達目標】 循環器系病症に常用される漢方処方製剤 内分泌系病症に常用される漢方処方製剤 防風通聖散、白虎加人參湯、など		
18	【授業単元】 漢方概論 18 【授業形態】 講義 【到達目標】 東洋伝承医学の特徴的理念 治未病・法自然・調全 重要古典医籍略解			26	【授業単元】 漢方各論 6 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎泌尿器系病症に常用される漢方処方製剤 頻尿、排尿痛、前立腺肥大症 猪苓湯、八味地黄丸、など		
19	【授業単元】 漢方概論 19 【授業形態】 講義 【到達目標】 随証治療 症状⇒証候⇒証型 診察原則・治療原則			27	【授業単元】 漢方各論 7 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神神経系病症に常用される漢方処方製剤 頭痛、不眠症、神経症 釣藤散、抑肝散、など		
20	【授業単元】 漢方概論 20 【授業形態】 講義 【到達目標】 陰陽理論・八綱分類 五行論・五臓分類 三流体相・気血水分類			28	【授業単元】 漢方各論 8 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系病症に常用される漢方処方製剤 筋肉痛、関節痛 桂枝加芍朮附湯、防己黃耆湯、など		
21	【授業単元】 漢方各論 1 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸器系病症に常用される漢方処方製剤① 感冒様症状、流行性感冒 麻黄湯、柴胡桂枝湯、など			29	【授業単元】 漢方各論 9 【授業形態】 講義 【到達目標】 皮膚科系病症に常用される漢方処方製剤 湿疹、尋麻疹、面皰 消風散、十味敗毒湯、など		
22	【授業単元】 漢方各論 20 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸器系病症に常用される漢方処方製剤② 咳嗽、気管支喘息 麻杏甘石湯、麦門冬湯、など			30	【授業単元】 漢方各論 10 【授業形態】 講義 【到達目標】 耳鼻咽喉科系病症に常用される漢方処方製剤① 鼻汁、鼻塞、鼻出血 小青竜湯、辛夷清肺湯、など		
23	【授業単元】 漢方各論 3 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化器系系病症に常用される漢方処方製剤① 悪心嘔吐、腹痛、食欲不振 半夏厚朴湯、安中散、など			【評価方法について】 評価は、筆記試験にて行なう。講義内容の習得を確認する意図を以て毎回講義終了時に「小テスト」を実施し、その合計点を40点に換算し、定期試験の60点と合わせて百点満点とし、評価基準は『学則規定』に準ずる。			
【特記事項】 『オリジナルノート：漢方総論』に準拠して講義を進めるので、空欄部分に書き込みを入れながら、自分自身の活かせるノートを作製するよう努める。							

科目名 (英)	症例研究Ⅰ (ThesisⅠ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 ドラッグストア・調剤薬局専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3～4時限
【授業の学習内容と心構え】 体験学習⇒「行動」を通じた気づきの体系化。それを基に問題発見→分析→対策案→実行→考察する自立学習。 立場や考え方の異なる相手と共同作業でグループ学習をし定められた条件の範囲で最善を尽くし成果を上げる。 これらを経て、自立した職業人になるための能力を身につけ、マナーとスキルを習得かつ実践する場として行うことを目的とする。							
【到達目標】 その1 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を更に身につける その2 業界にとって必要とされる人材、専門職業人として社会のルールを身につける その3 グループ学習によりチームワークを学ぶ 能動的に授業を進められる計画性も備える							
【使用教科書・教材・参考書】 各自準備すること				【授業外における学習】 学校の規定を厳守する			
回				回 授 業 概 要			
1, 2 【授業単元】オリエンテーション 【授業形態】座学 グループワーク 【到達目標】◆症例研究の目的、授業ルールを理解する ◆どんなテーマで研究を進めていくか検討し仮決定する どんなふうに進めるかを検討しよう				17, 18 【授業単元】各グループ研究を進める 【授業形態】グループワーク 【到達目標】			
3, 4 【授業単元】グループごとにテーマの相談してみよう 【授業形態】グループワーク 【到達目標】◆どんなテーマで研究を進めていくか検討し仮決定する その①自分たちのテーマを話し合ってみよう その②テーマ候補を3つにして具体的に内容を詰めてみよう 何をどんなふうに進めるかも検討しよう！				19, 20 【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5, 6 【授業単元】テーマを仮決め企画書を作成する 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 進め方、材料、予算などもある程度算出する プレゼンをするために資料作り				21, 22 【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7, 8 【授業単元】プレゼン資料作り 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 ◆どんな意見が出て何を軸に現場でどのように活かしていけるか？ ◆研究内容の未透視を立てる ◆何故このテーマにしたか？ ◆学生らしく何を訴えていくか十分に検討し配慮する				23, 24 【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
9, 10 【授業単元】仮テーマを仮発表をする 教室でプレゼン 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 ◆どんな意見が出て何を軸に現場でどのように活かしていけるか？ ◆研究内容の未透視を立てる ◆何故このテーマにしたか？ ◆学生らしく何を訴えていくか十分に検討し配慮する				25, 26 【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
11, 12 【授業単元】テーマの修正と企画書の確定／抄録の説明 【授業形態】グループワーク 【到達目標】抄録①の作成に関して理解する ◆テーマについて、どう進めたいか？何を軸にするか？ ◆どこに訴えていくかを決める。 ◆抄録を一部作成①				27, 28 【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
13, 14 【授業単元】各グループ研究開始 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 何をどのように進めるか計画的に進めること				29, 30 【授業単元】前期最終日：これまでのまとめとしてグループ発表 【授業形態】グループワーク 座学 【到達目標】◆これまで調べた事を各グループ発表 ◆前期最終試験に該当するため抄録②を紙で提出 ◆基準を満たして評価合格とする ◆夏休みになるため後期初回に必要な事を書き留めて提出する			
15, 16 【授業単元】 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 ◆中間試験に該当するため抄録①を提出 ◆基準を満たして評価合格とする				【評価について】 抄録①②期日厳守60点 その他提出物期日厳守40点 を考慮し評価する			
【特記事項】 ※全体の流れでその都度予定を変更する場合があります							

科目名 (英)	症例研究Ⅱ (ThesisⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科ドラッグストア・調剤薬局 専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3～4限
【授業の学習内容と心構え】 体験学習⇒「行動」を通じた気付きの体系化。それを基に問題発見→分析→対策案→実行→考察する自立学習。立場や考え方の異なる相手と共同作業でグループ学習をし定められた条件の範囲で最善を尽くし成果を上げる。これらを経て、自立した職業人になるための能力を身につけ、マナーとスキルを習得かつ実践する場として行うことを目的とする。							
【到達目標】 その1 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を更に身につける その2 業界にとって必要とされる人材、専門職業人として社会のルールを身につける その3 グループ学習によりチームワークを学ぶ							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 学校の規定を厳守する			
回		回	授 業 概 要				
1, 2	【授業単元】 後期研究開始 【授業形態】 【到達目標】	17, 18	【授業単元】12/17卒業研究発表会に向け修正と発表リハーサル 【授業形態】グループワーク座学 至：教室 論文作成 【到達目標】◆パソコンデータや発表原稿など整理しておこう ◆本番同様に実施します ◆質問対策 ◆各グループディスカッション				
3, 4	【授業単元】 そろそろまとめに入ろう 【授業形態】 【到達目標】	19, 20	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】 論文はすぐに提出できるように準備しておく グループ考察・個人考察もグループ全員で見直しをすること！				
5, 6	【授業単元】 まとめよう 【授業形態】 【到達目標】 ◆原稿を完成させる ◆発表者を決めるーパソコン操作者を決めるー他役割分担	21, 22	【授業単元】 卒業研究発表会に向け修正と最終発表リハーサル 【授業形態】 【到達目標】 パワーポイント確認 原稿確認 質問対策				
7, 8	【授業単元】12/17発表に向け各グループ発表と各グループディスカッション 【授業形態】 グループワーク 座学 【到達目標】 ◆お互いが気づいたことを伝え合おう ◆見やすさ聞きやすさ軸はブレていないかなど	23, 24	【授業単元】リハーサル予備日 【授業形態】グループ座学 【到達目標】◆パソコンデータや発表原稿など整理しておこう パワーポイント締め切り 発表原稿締め切り 質問対策締め切り 卒業研究発表会本番				
9, 10	【授業単元】 先週の内容から再検討して修正をしていく 【授業形態】グループワーク 【到達目標】 各グループ発表と各グループディスカッションを経て、それをどのように反映していくか、修正しまとめ直す	25, 26	口頭発表チーム 最終抄録・パワーポイント提出	待機チーム 最終抄録・パワーポイント提出			
11, 12	【授業単元】 【授業形態】 グループワーク 【到達目標】 各グループ発表と各グループディスカッションを経て、それをどのように反映していくか、修正しまとめ直す	27, 28	卒業論文最終提出		卒業論文最終提出		
13, 14	【授業単元】 【授業形態】グループワーク 【到達目標】	29, 30	口頭発表リハーサル				
15, 16	【授業単元】論文の書き方を解説 抄録最終提出 論文作成 【授業形態】座学 グループワーク 【到達目標】 ◆論文を書き始めよう ◆後期中間試験に当たるため最終抄録を紙にて提出する		【評価について】 提出物期日厳守40点 卒業論文期日厳守60点 を考慮し評価する				
【特記事項】 ※全体の流れでその都度予定を変更する場合があります ※発表日程が確定次第、教室でリハーサルを数回実施(予定変更)します							

科目名 (英)	調剤薬局事務実務 II (Dispensing Pharmacy Office Practice II)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 調剤薬局事務専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3, 4時限
【授業の学習内容と心構え】 現役の薬剤師として調剤薬局に勤務しておりいつも新しい情報をえられる状態になっている。 薬剤師でなくても調剤薬局で仕事ができる内容が国から認められ無資格者の重要性が再認識されているので 現場実習に行ったときに即戦力になれるような人材を育てる。							
【到達目標】 現場実習に行ったときに即戦力になれるような人材を育てる。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書				【授業外における学習】 予習より復習 毎週前週の内容の小テストがあるのできちんと復習しておきましょう			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】 オリエンテーション 授業の内容を知る			17・18	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 神経の医薬品の作用機序等が説明できる。その1		
3・4	【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】 医薬品の一生を説明できる。			19・20	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 神経の医薬品の作用機序等が説明できる。その2		
5・6	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 風邪症状の医薬品の作用機序等が説明できる。その1			21・22	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 眼と耳の医薬品の作用機序等が説明できる。		
7・8	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 風邪症状の医薬品の作用機序等が説明できる。その2			23・24	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 皮膚の医薬品の作用機序等が説明できる。		
9・10	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 消化器の医薬品の作用機序等が説明できる。			25・26	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 泌尿器・ホルモンの医薬品の作用機序等が説明できる。		
11・12	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 生活習慣病の医薬品の作用機序等が説明できる。その1			27・28	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 その他の医薬品の作用機序等が説明できる。		
13・14	【授業単元】 【授業形態】 講義 小テスト 【到達目標】 生活習慣病の医薬品の作用機序等が説明できる。その2			29・30	【授業単元】 【授業形態】 定期試験、解答解説 【到達目標】 すべての講義の内容		
15・16	【授業単元】 【授業形態】 中間試験・解答解説 【到達目標】 2～8回目の講義より			【評価について】 小テストで40点、 中間試験20点 定期試験60点			
【特記事項】							

科目名 (英)	ドラッグストア運営演習 (Drug Store Management Exercise)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 本校を卒業し、登録販売者としてドラッグストアで医薬品・健康相談に携わってきた講師が、ドラッグストアの売り場づくりについての授業を行う。 季節ごとの陳列、関連陳列、装飾、POP作りなど。また、常識にとらわれない新しい陳列方法や魅せ方を考えてほしい。							
【到達目標】 1年間の実務実習を生かし、グループでテーマに沿った売場のプロモーションを考えることができる。 作成した売り場の良い点と改善点を見つけることができる。 おすすめ製品のPOPを作ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 自店・近隣店舗・他業種でも良いので、陳列方法やPOPなどを気にして見てみる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 POPを作る 【授業形態】 演習 【到達目標】 グループ決め 栄養ドリンクのPOPを作る			9	【授業単元】 春・夏の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 花粉商材のエンドプロモーションを作る		
2	【授業単元】 POPを作る 【授業形態】 演習 【到達目標】 栄養ドリンクのPOPを作る			10	【授業単元】 春・夏の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 花粉商材のエンドプロモーションを作る		
3	【授業単元】 秋・冬の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 風邪のエンドプロモーションを作る 保湿商材のエンドプロモーションを作る			11	【授業単元】 春・夏の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 UVケア・制汗剤などのエンドプロモーションを作る		
4	【授業単元】 秋・冬の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 風邪のエンドプロモーションを作る 保湿商材のエンドプロモーションを作る			12	【授業単元】 春・夏の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 UVケア・制汗剤などのエンドプロモーションを作る		
5	【授業単元】 秋・冬の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 風邪のエンドプロモーションを作る 保湿商材のエンドプロモーションを作る			13	【授業単元】 介護用品の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 未来の介護用品の売り場を考える		
6	【授業単元】 秋・冬の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 風邪のエンドプロモーションを作る 保湿商材のエンドプロモーションを作る			14	【授業単元】 介護用品の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 未来の介護用品の売り場を考える		
7	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 1～6回で作成した売り場のプレゼン 良い点・改善点や課題を記述する。			15	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 8～14回で作成した売り場のプレゼン 良い点・改善点や課題を記述する。		
8	【授業単元】 春・夏の売り場づくり 【授業形態】 演習 【到達目標】 花粉商材のエンドプロモーションを作る			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:課題提出・プレゼンテーション・筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:課題提出・プレゼンテーション・筆記試験・出席点			
【特記事項】				点数の詳細は別途お知らせ 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	医薬品製剤実習 (Pharmaceutical Preparation Practice)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 調剤薬局事務/ドラッグストア専攻	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 医薬品製造するにあたり剤形の違いによる特徴や製造工程を薬局で製造できる薬局製剤を製造する実習を行い、またその製造された製剤がきちんとできているか分析する。よって製剤の違いによる製造の方法などを取得する。白衣持参のこと。							
【到達目標】 薬局製剤を製造することにより製剤の違いや分析方法の違いを説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 各種プリント				【授業外における学習】 予習より復習 前回の講義の小テストが講義の最初に必ずあるので復習をしておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1～3	【授業単元】 製剤学とは 【授業形態】 実習 【到達目標】 医薬品の剤形の違いとその意味を知る			25～27	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる		
4～6	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる			28～30	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 半年間知識を身に付けてきたものを再確認する。		
7～9	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
10～12	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13～15	【授業単元】 確認試験・解答解説 【授業形態】 テスト 【到達目標】 1～4までの内容について知識の確認をするとともに解説をすることで知識のフェードバックができるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
16～18	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
19～21	【授業単元】 内服薬と外用薬 【授業形態】 実習 【到達目標】 製剤を行い分析を行うことの意味と作業工程を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
22～24	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 1～7までの内容について知識の確認をするとともに解説をすることで知識のフェードバックができるようになる。			【評価について】 小テスト40点、中間試験30点、定期試験30点			
【特記事項】 1回は3時限分を表します。							

科目名 (英)	調剤薬局実習後教育 (Post-practical Education)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科調剤薬局事務専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日
【授業の学習内容と心構え】 薬業界において長きに渡り、地域住民のセルフメディケーションを支援してきた教員が、薬業界で活躍できるプロに必要なとされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。 社会から求められているのは、薬に関する知識・技術だけでなく、人々の健康を支え、社会に貢献するという役割だということを意識しながら授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 1年間の調剤薬局実習を通じて、身についたことや、これから身につけるべきことをグループワークで共有し、職業理解を更に深めて、社会から求められている役割を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 実習先の店舗だけでなく、他の店舗を多く見学しておくことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年生に対して、現場での自身の様々な経験を分かり易く伝えることが出来るように纏める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年生に対して、現場での自身の様々な経験を分かり易く伝えることが出来るように纏める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年生とともに、共有した現場経験を纏め、発表用のポスターを作成する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 演習 【到達目標】 ポスター発表を通して、自身の経験をプレゼンテーション出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 実習報告書を作成する 【授業形態】 演習 【到達目標】 実習報告書を作成し、自身の実習の振り返りを文章化する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 お礼状を作成する 【授業形態】 演習 【到達目標】 実習のお礼状を作成し、実習先の方々へ感謝の気持ちを伝える。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 お礼状を作成する 【授業形態】 演習 【到達目標】 実習のお礼状を作成し、実習先の方々へ感謝の気持ちを伝える。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 実習後試験&振り返り 【授業形態】 演習 【到達目標】 調剤薬局実習の総まとめを文章化する。				【評価について】 評価は、筆記試験と出席率で行う。授業内で確認した内容の理解、定着度を確認する。 出席率(40点)と、実習後試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	登録販売者実習後教育 (Post-practical Education)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 月曜日
【授業の学習内容と心構え】 薬業界において長きに渡り、地域住民のセルフメディケーションを支援してきた教員が、薬業界で活躍できるプロに必要とされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。社会から求められているのは、薬に関する知識・技術だけでなく、人々の健康を支え、社会に貢献するという役割だということを意識しながら授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 1年間の登録販売者実習を通じて、身についたことや、これから身につけるべきことをグループワークで共有し、職業理解を更に深めて、社会から求められている役割を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 医薬品登録販売者のための薬局・薬店ワークの基礎知識				【授業外における学習】 実習先の店舗だけではなく、他の店舗を多く見学しておくことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 講義 【到達目標】 1年生に対して、現場での自身の様々な経験を分かり易く伝えることが出来るように纏める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 講義 【到達目標】 1年生に対して、現場での自身の様々な経験を分かり易く伝えることが出来るように纏める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 講義 【到達目標】 1年生とともに、共有した現場経験を纏め、発表用のポスターを作成する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 後輩へ自身の体験を伝える 【授業形態】 講義 【到達目標】 ポスター発表を通して、自身の経験をプレゼンテーション出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 実習報告書を作成する 【授業形態】 講義 【到達目標】 実習報告書を作成し、自身の実習の振り返りを文章化する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 お礼状を作成する 【授業形態】 講義 【到達目標】 実習のお礼状を作成し、実習先の方々へ感謝の気持ちを伝える。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 お礼状を作成する 【授業形態】 講義 【到達目標】 実習のお礼状を作成し、実習先の方々へ感謝の気持ちを伝える。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 実習後試験&振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 登録販売者実習の総まとめを文章化する。				【評価について】 評価は、筆記試験と出席率で行う。授業内で確認した内容の理解、定着度を確認する。 出席率(40点)と、実習後試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	登録販売者試験対策講座Ⅰ (Registered Pharmaceutical Vendor License Examination PreparationⅠ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 調剤薬局/ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90時間 (6)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2～4時限
【授業の学習内容と心構え】 本校で登録販売者試験に関する講座を担当している講師が、登録販売者試験の得点を伸ばし合格する為の授業を行う。 グループに分かれ、2～5章の内容ををメインに復習し、理解を深めていく。							
【到達目標】 模擬試験で合格ラインを越えられるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 過去問題(各都道府県ブロック) 登録販売者試験テキスト&要点整理				【授業外における学習】 授業時間内で解いた問題は、もう一度解きなおし、正解出来るようになること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1-5	【授業単元】模擬試験 【授業形態】試験 【到達目標】模擬試験に挑戦し、現在の实力を知る。			41-45	【授業単元】模擬試験(定期試験) 【授業形態】試験 【到達目標】模擬試験に挑戦し、現在の实力を知る。		
6-10	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。 模擬試験の問題振り返り				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11-15	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
16-20	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
21-25	【授業単元】模擬試験(中間試験) 【授業形態】試験 【到達目標】模擬試験に挑戦し、現在の实力を知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
26-30	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。 模擬試験の問題振り返り				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
31-35	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。 模擬試験の問題振り返り				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
36-40	【授業単元】問題演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】2～5章を復習し理解を深める。			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:模擬試験の点数×1/3→最大40点とする 定期試験(60点満点) 実施方法:模擬試験の点数×1/2→最大60点とする			
【特記事項】				中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	登録販売者試験対策講座Ⅱ (Registered Pharmaceutical Vendor License Examination PreparationⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科 調剤薬局/ドラッグストア専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期集中 1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 本校で登録販売者試験に関する講座を担当している講師が、登録販売者試験の得点を伸ばし合格する為の授業を行う。 問題演習を中心に進める。分からないことはその日のうちに解決して帰ること。							
【到達目標】 登録販売者試験に合格する！							
【使用教科書・教材・参考書】 過去問題(各都道府県ブロック) 登録販売者試験テキスト&要点整理				【授業外における学習】 授業時間内で解いた問題は、もう一度解きなおし、正解出来るようになること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2 3・4	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 模擬試験の問題振り返り				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5・6 7・8	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 模擬試験の問題振り返り				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9・10 11・12	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 誤文訂正ができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13・14	【授業単元】模擬試験(中間試験) 【授業形態】演習 【到達目標】合格ラインを突破できるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15・16・ 17・18	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 誤文訂正ができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
19・20・ 21・22	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 誤文訂正ができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
23・24・ 25・26	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習 【到達目標】過去問を解けるようになる 誤文訂正ができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
27・28・ 29・30	【授業単元】模擬試験(定期試験)と誤問の訂正 【授業形態】演習 【到達目標】合格ラインを突破出来るようになる 誤った問題を訂正し、正解を導く			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 模擬試験の得点×1/3(40点満点) 定期試験(60点満点) 実施方法: 模擬試験の得点×1/2(60点満点)			
【特記事項】				中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	中級バイオ試験対策講座 (Preparation of Biotechnology Examination)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	
学科・コース	くすり総合学科バイオ医療研究専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90時間 (6)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1～3時限 後期 木曜日 3～5時限
【授業の学習内容と心構え】 長きに渡り、バイオ技術者教育および医学生物学研究に携わってきた教員が、中級バイオ技術者認定試験の過去問の演習および解説を中心とした授業を行い、中級バイオ技術者認定試験合格を目指す。							
【到達目標】 中級バイオ技術者認定試験に合格に到達する知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、問題・資料のプリントを配布する。				【授業外における学習】 頻出の問題を確実に正解するために、くり返し復習を行うこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1－3	【授業単元】 バイオテクノロジー総論① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 バイオテクノロジー総論を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			25－27	【授業単元】 分子生物学② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 分子生物学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。		
4－6	【授業単元】 生化学① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 生化学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			28－30	【授業単元】 遺伝子工学② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 遺伝子工学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。		
7－9	【授業単元】 微生物学① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 微生物学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			31－33	【授業単元】 総合演習① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中級バイオ技術者認定試験合格レベルの7割以上正解できるようにする。		
10－12	【授業単元】 分子生物学① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 分子生物学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			34－36	【授業単元】 総合演習② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中級バイオ技術者認定試験合格レベルの7割以上正解できるようにする。		
13－15	【授業単元】 遺伝子工学① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 遺伝子工学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			37－39	【授業単元】 総合演習③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中級バイオ技術者認定試験合格レベルの7割以上正解できるようにする。		
16－18	【授業単元】 バイオテクノロジー総論② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 バイオテクノロジー総論を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			40－42	【授業単元】 総合演習④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中級バイオ技術者認定試験合格レベルの7割以上正解できるようにする。		
19－21	【授業単元】 生化学② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 生化学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			43－45	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 不正解だった問題の復習を行い、以後、類似問題を解く時には正解できるようにする。		
22－24	【授業単元】 微生物学②／中間試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 微生物学を理解し、7割以上(合格レベル)正解できる知識を習得する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業内で解いた問題の理解、定着度を確認する。 筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	調剤報酬請求事務専門士2級講座 (Dispensing fee professional Expert qualification course)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科ドラッグストア・調剤薬局事務専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 3-4時間
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医療系専門学校で医療事務学科を担当後、複数の専門学校で調剤事務教科を指導、大手通信講座の調剤事務講座担当講師経験もある検定協会所属教員が、調剤報酬請求事務専門士検定を取得するために必要な知識と技術を習得する授業を行う。 調剤報酬請求事務専門士検定は、企業研修にも採用される、実務に則した試験である。授業内容は、常に調剤事務の仕事に直結しており、現場において「即戦力」となり得る人材となるべく、学生の内に仕事内容を把握し、専門的な知識を身に付けられるよう、真剣に授業に取り組んで欲しい。							
【到達目標】 ①最終目標は、調剤報酬請求事務専門士2級を取得。 ②調剤報酬明細書を手書きで記載できる。 ③点数算定の理由等を患者様に説明できる。 ④2024年調剤報酬改定で変更があった項目について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 公式テキスト、処方箋問題集、電卓(必須) 授業内配布のプリント				【授業外における学習】 各項目のポイント・自身の苦手項目について復習すること。 予習よりも「復習」に重点をおく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1, 2	【授業単元】 前回試験の振り返り、改定内容の把握 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①1年次検定試験を振り返り、苦手項目を確認し、次回に向けての学習方針を決定する。 ②2024年6月より変更になった点を確認し、知識を更新する。 ③1年次のレセプト記載方法(穴埋め)を再確認する。			13, 14	【授業単元】 学科対策④/実技対策② 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①薬学管理料3(在宅)の算定要件について、出題方法を理解し、正答できる。 ②在宅にかかわる加算について、出題方法を理解し、正答できる。 ③在宅にかかわるレセプトを正しく記載できる。		
3, 4	【授業単元】 実技対策① 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①単位薬剤料、薬剤調製料・調剤管理料の剤分けについて理解し、処方箋上で正しく振り分けができる。 ②各種加算について理解し、正しい点数を算定できる。 ③レセプトの手書き記載を理解し、算定できる。			15, 16	【授業単元】 学科対策⑤、実技対策③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①高額療養費等、社会保障制度について、出題方法を理解し、正答できる。 ②公費負担医療のレセプト記載方法を理解し、算定できる。		
5, 6	【授業単元】 学科対策① 【授業形態】 講義 【到達目標】 調剤基本料の算定要件及びその加算について、出題方法を理解し、正答できる。			17, 18	【授業単元】 学科対策⑥、実技対策④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①特殊な薬剤調製料の算定方法を理解し、実技問題に正答できる。 ②特殊な処方箋問題について、それぞれのポイントを押さえ、正しいレセプトを記載できる。		
7, 8	【授業単元】 学科対策② 【授業形態】 講義 【到達目標】 薬学管理料1(在宅を除く)の算定要件及びその加算について、出題方法を理解し、正答できる。			19, 20	【授業単元】 検定試験対策①学科 【授業形態】 講義 【到達目標】 過去問題(学科)より自身の苦手項目を理解する。		
9, 10	【授業単元】 学科対策③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①薬学管理料2(在宅を除く)の算定要件及びその加算について、出題方法を理解し、正答できる。 ②介護保険について理解し、正答できる。			21, 22	【授業単元】 検定対策②学科・実技 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①過去問題(実技中心)より自身の苦手項目を理解する。 ②学科・実技ともに、苦手項目を克服し、正しい解答を導き出せる。		
11, 12	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①検定試験の出題形式を確認し、本番に向けて調整する。 ②苦手項目を確認する。			23	【授業単元】 定期試験(検定) 【授業形態】 講義 【到達目標】 調剤報酬請求事務専門士検定2級を目指す。		
【特記事項】 ①電卓は、携帯電話・スマートフォン、医療系専用電卓は禁止。 尚、M+機能またはGT機能があるものを用意すること。 ②課題は必ず提出すること。 ③各講義の単元名が「学科対策」になっている場合も、授業内でレセプト演習は実施するため、テキスト・問題集は忘れないこと。				【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 :1年生授業範囲+中間試験までの授業内容+検定過去問題 定期試験(60点満点) 実施方法:検定試験 評価は、学則規定に準じ、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計とする。 ただし、課題、出欠状況、受講態度等も上記評価に加点する。			

科目名 (英)	実験動物技術者2級対策講座 (Preparation of Experimental Animal Tech)	必修 選択	選択	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	くすり総合学科バイオ医療研究専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2～3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 製薬会社等で動物実験および実験動物飼育管理の経験を有し、実験動物学分野で博士号を持つ実験動物1級技術者の講師が、実験動物2級技術者試験合格のために筆記試験および実技試験対策を行う。受講する学生には認定試験に「絶対合格する」という意気込みを期待する。							
【到達目標】 実験動物2級技術者試験に合格する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版 (丸善出版) 基本的な動物の取り扱い (日本実験動物協会) 実験動物2級技術者筆記試験過去問							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 動物実験と実験動物・動物福祉 【授業形態】 講義 【到達目標】 動物実験と実験動物・動物福祉を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。			9	【授業単元】 動物実験の基本・マウス、ラット 【授業形態】 講義 【到達目標】 動物実験の基本・マウス、ラットを理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。		
2	【授業単元】 解剖と生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 解剖と生理を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。			10	【授業単元】 ハムスター、スナネズミ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ハムスター、スナネズミを理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。		
3	【授業単元】 遺伝と育種 【授業形態】 講義 【到達目標】 遺伝と育種を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。			11	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 繁殖 【授業形態】 講義 【到達目標】 繁殖を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。			12～15	【授業単元】 実技試験対策(マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ) 【授業形態】 【到達目標】 実技試験に合格するレベルの技術を習得する。		
5	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 栄養と飼料・飼育と衛生 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養と飼料・飼育と衛生を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 施設と環境・労働安全衛生 【授業形態】 講義 【到達目標】 施設と環境・労働安全衛生を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 疾病と感染・遺伝子改変動物作製技術 【授業形態】 講義 【到達目標】 疾病と感染・遺伝子改変動物作製技術を理解し、筆記試験合格レベルの知識を習得する。			【評価について】 評価は、出席率、筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							